

(4) カツオ餌料対策試験

琉球水研、資源調査研究室

カツオ漁業不振要因の一つに餌料問題があげられている。即ち(1)餌魚の活力が弱い (2)漁法が殆んど非能率的な追込漁法で、採捕量が少なく絶対量が不足していること (3)採捕餌魚が高率的に利用されない (4)適種がないこと等で日帰り操業しか行えず漁期間の延長、遠洋化も出来ない状況にある。

生産量の増大を図るため、政府施策とも相俟って最近、小型まき網漁業が5組着業した。この漁業が能率的な操業を行い、更に採捕餌魚が効果的に利用されるためには、対象魚種の時期別分布、環境等の実態把握と、蓄養施設、技術の改善がなされなければ導入価値が少ない。又この外未利用資源の開発、更には適種の積極的移殖をも推進する必要がある。このような問題解決に寄与すべく、この調査項目を実施した。

餌料魚の調査開発並に蓄養施設改良試験

時期別分布、環境状況の把握未利用資源開発並に採捕餌魚の高率的利用のための施設改良、更に生態研究のための標本蒐集をおこなった。

① 調査期間及び海域、使用船舶

航次	調査期間	日数	調査海域	漁場水深	使用船舶
第1次	1968年 7月27日～8月 1日	6日	運天港、阿護浦	8～ 39m	くろしお (21.44～100HP)
第2次	1968年 8月23日～ 29日	7日	古宇利島東方、運天港	10～ 52m	"
第3次	1968年 9月20日～ 22日	3日	名護湾	44m	"
第4次	1968年10月16日～ 25日	10日	運天港	18～ 20m	"
第5次	1968年11月19日～ 25日	7日	金武湾、中城湾、川田湾	32～ 50m	"
第6次	1968年12月18日～ 23日	6日	同上	30～ 50m	"
第7次	1969年 3月13日～ 19日	7日	北谷、許田、屋部地先	20～ 53m	"
第8次	1969年 6月10日～ 17日	8日	伊江島南部海域	16～ 42m	"

② 調査方法

イ 集魚灯 (水中灯100V500W～1000W、時に120V300Wのポータブル集魚灯も併用した)で集魚し、肉眼観察と魚探記録で集魚量、出現魚種を調査し、更に浮敷網、タモ網、リングネット等で採捕し、出現魚種、未利用魚種の確認開発を行った。

ロ 採捕餌魚を強制循環装置活魚艙で活力試験

ハ 採捕餌魚は生態研究用に供する。

③ 調査結果

イ 餌魚対象魚種について